

「ツキノワグマ等による被害防止、安心して暮らすための環境整備」

大学 (成果報告書作成者)	会津大学・コンピュータ理工学部・教授 齋藤寛
自治体	会津地方振興局県民環境部、会津若松市役所農林課、喜多方市役所市民生活課、会津美里町役場産業振興課
その他関係者	
(1)調査研究の 課題・背景	本調査研究は、ツキノワグマ等による被害防止、安心して暮らすための環境整備のために、会津大学で研究を行っているAIに基づいた野生動物警報システム（以下、警報システムと呼ぶ）を、人里における野生動物の出没検出・発報・通知やツキノワグマ等の生息モニタリング調査へ活用することで、被害未然防止に寄与するものである。
(2)令和5年度 調査研究活動内 容	会津大学で開発した警報装置、追跡装置を、会津美里町八木沢地区、会津若松市一箕町長原地区、会津若松市東山町、喜多方市慶徳町に合計15台設置し、クマ等のモニタリングと追い払いの効果確認を行った。
(3)令和5年度 時点の結果	・八木沢地区 クマ42件、イノシシ97件検出、メール配信数71件、クマ追い払い17件（追い払い率43.6%）、イノシシ追い払い18件（追い払い率27.3%） ・長原地区 クマ0件、イノシシ13件検出、メール配信数5件、イノシシ追い払い1件（追い払い率16.7%） ・東山町 クマ19件、イノシシ1件検出、メール配信数6件、クマ追い払い0件（追い払い率0%）、イノシシ追い払い0件（追い払い率0%） ・慶徳町 クマ1件検出、イノシシ0件、メール配信数0件、クマ追い払い1件（追い払い率 100%）
(4)提言または 今後の展開	開発した警報システムにて、即時にクマ等の検出や周知ができることを示した。今後は、協力いただける市町村を増やす取り組み、住民や市町村関係者と議論する場を設けていただきたい。それらを基に、市町村に展開可能で、より現実的かつ効果的な獣害対策を支援していく。